

はじめに

日光市は、2015年に徳川家康没400年を迎え、400年式年祭など様々な行事が行われました。その日光市には、世界遺産の「日光の社寺」、ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」をはじめ、日本で唯一、特別史跡と特別天然記念物の二重指定を受けている「日光杉並木街道」、など、世界に誇る雄大な自然と歴史的・文化的遺産があります。また、鬼怒川温泉をはじめ、川治温泉、湯西川・川俣・奥鬼怒温泉郷、奥日光湯元・中禅寺温泉など、恵まれた観光資源を基盤として発展してきました。しかしながら、人口減少及び高齢化が進行する山間地域においては、様々なコミュニティ活動が停滞する状況が懸念されています。

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター（CPMS）は、これまで日光市国際交流協会による交流事業「食から世界を考える」の開催に協力してきました。2015年度は、国際学部の外国人留学生、および留学経験日本人学生によって、栃木県大学・地域連携プロジェクト支援事業「外国人留学生と留学経験から見る日光の観光開発プラン『世界遺産＋1』」を実施し、CPMSと日光市が協力しました。更に昨年2016年度は、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会による主催事業として、「国際交流都市日光の再発見！一学生が考える日光のもう一つの地域発展プランー」（通称日光プロジェクト）を実施し、日光・東照宮エリア、中禅寺湖エリアでフィールドワークによる調査を行い、シンポジウムを開催しました。

本報告書は、2015年度、2016年度に続き、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター/日光市国際交流協会による主催事業として、「国際交流都市日光の再発見ー『まちづくりと観光開発』を留学生と考える（通称：日光プロジェクト）」を実施した内容をまとめたものです。このプロジェクトは、「国際交流都市日光の魅力」を①国際観光開発、②国際交流、③地域づくり、の3つの視点から再発見し、留学生と海外経験のある日本人学生の気づきによる「まちづくりと観光開発」のためのフィールドワーク、シンポジウムを通じて提言を行い、日光に対して国際貢献・地域貢献していくことを目的としています。

本年度は、12月3日に世界遺産の日光・東照宮エリア、12月10日に恵まれた観光資源と美しい自然環境がある一方人口減少及び高齢化が進行する山間地域におけるコミュニティ活動の停滞が心配されている、日光市湯西川エリア（水の郷、温泉街、道の駅、平家の里）でのフィールドワークの調査を行い、12月16日「国際交流都市日光の再発見！」をテーマに宇都宮大学でシンポジウムを開催しました。参加者は、日光市関係者、アジア、欧米など留学生、海外経験のある日本人留学生など約80名でした。第1部の講演では、最初に、疋野吾一氏（日光市栗山地域おこし協力隊）「日光市の栗山地区における地域お

こし協力隊の活動と課題」、次に、伴弘美氏（湯西川館本館女将）「日光市の湯西川におけるまちづくりと観光開発」、の2名の講師がお話をしました。第2部では、宇都宮大学留学生によるプレゼンテーション「日光東照宮と栗山地域の『地域おこし』再発見！」を行いました。12月3日と12月10日にフィールドワークの調査結果を基に、留学生・海外経験のある日本人学生の視点から、国際交流都市日光の魅力、まちづくりと観光開発および課題について発表し、3人のコメンテーターがコメントしました。その後の質疑応答では、国際交流都市日光の新しい地域資源や観光資源の可能性について議論し、日光のまちづくりと観光開発について宇都宮大学外国人留学生・海外経験のある学生と一緒に考えることができました。

最後に、本プロジェクトおよび本シンポジウムで世話になった、日光市国際交流協会の会員の皆さん、学生のインタビューにご協力いただいた日光市東照宮エリア、湯西川エリアの商店街・観光業の皆さん、観光客の皆さんなど関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

また、事務局の船山千恵さん、周陽慧さん、テープおこしをしていただいた本田みゆりさん、島脇彩佳さんに感謝申し上げます。

2018年3月

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

副センター長 重田 康博